

2025年日本国際博覧会プロデューサー企画

「大阪・関西万博テーマ事業（石黒館）プレイベント in 醍醐寺」

開催日 | 9/28 (木) ~ 10/1 (日)

開催場所 | 三宝院 純浄観  
※重要文化財

アンドロイド「ERICA」が石黒パビリオンの概要についてスライドを用いて説明します。

時間 | 9:00 - 17:00

※入場には拝観料が必要です



人工臓器、遺伝子操作、人間らしいロボット、AIによって、人間の定義を拡張し、人間を進化させる科学技術。人間は動物のような生物的進化の方法だけでなく、科学技術による進化の方法を持ちます。そして、それが人間を人間たらしめています。これからの人間は、

さらに科学技術を発展させ科学技術と融合しながら、「いのち」の可能性を飛躍的に上げ、その多様な価値観と幸福感で人間自身や人間社会、そしてそれを取り巻く環境や生態系を発展させていきます。本パビリオンはそのような「いのち」(人間・社会)の新たな在り方を創造し、展示します。来館者は、人間とアンドロイドロボットが共に働く最先端の生活空間の中を、様々な情報を受け取りながら、ゆっくりと通り抜けていきます。会場では、大阪大学等の協力により、様々な未来シーンを再現します。そして、アンドロイドロボット、役者、来館者が関わり合います。その中で、来館者は自分についての未来を感じ、考え、様々な思いを巡らせます。

2025年日本国際博覧会 テーマ事業プロデューサー「いのちを拡げる」



石黒 浩  
Hiroshi Ishiguro

ロボット学者  
工学博士  
大阪大学教授  
ATR 石黒浩特別研究所客員所長

1991年、大阪大学基礎工学研究科博士課程修了。工学博士。2009年より大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授。ATR 石黒浩特別研究所客員所長 (ATR フェロー)。2017年から大阪大学名誉教授。研究対象は、人とかわるロボットやアンドロイドサイエンス。多数の論文を主要な科学雑誌や国際会議で発表。また、ロボビー、リプリー、ジェミノイド、テレノイド、エルフォイドといった、人とかわるヒューマノイドやアンドロイドを開発。これらのロボットは、ディスカバリーチャンネルやNHK、BBCほか、世界中の多数のメディアで取り上げられている。2009年には、メディアアートの世界的なイベントの1つであるアルス・エレクトロニカ・フェスティバルのフィーチャードアーティストとして招待された。2011年、大阪文化賞受賞。2015年、文部科学大臣表彰受賞およびシェイク・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム知識賞受賞。2020年、立石賞受賞。

2025年日本国際博覧会にてシグネチャーパビリオン「いのちの未来」を出展されます

シグネチャーパビリオン  
「いのちの未来」

人間とロボットの境界がつかなくなる世界



人、ロボット、アバターの視点が交錯する「新しいいのち」の可能性を展示

※現時点での予定ですので変更する場合がございます。

# 特別企画 × ロボット学者 石黒浩

2025年日本国際博覧会 テーマ事業プロデューサー企画

## 大阪・関西万博テーマ事業（石黒館） プレイベント in 醍醐寺



アンドロイド「ERICA」が石黒パビリオンの概要についてスライドを用いて説明します。

2023/9/28 (木) ▶ 10/1 (日) 9:00-17:00

世界文化遺産 京都 醍醐寺 三宝院 純浄観

(京都市伏見区醍醐東大路町22) ※入場には拝観料と特別拝観料が必要です。



アクセス

日本国際芸術祭とは2025年日本国際博覧会を契機に開催する新しい国際的な芸術祭です。千年の都京都、文化庁がある文化首都京都で開催致します。アート・デザイン・サイエンス・テクノロジー・経済の共創を目指し、万博までも万博後も、毎年継続していく予定です。2023年の開催期間は9/1～10/15、メイン会場を世界文化遺産京都醍醐寺に据え、京都市内・京都府内の画廊、工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館等を繋ぎます。京都を中心に展開し、大阪や全国が繋がっていく形を創り上げます。



日本国際芸術祭  
専用ページ



主催 | (一社) 夢洲新産業・都市創造機構    特別協力 | 世界文化遺産 京都 醍醐寺  
後援 | 京都府 / 京都市 / 「大阪・関西万博」京都支援協議会 / (公社) 2025年日本国際博覧会協会  
経済産業省 近畿経済産業局 / (一社) 関西経済同友会 / 大阪商工会議所 / (公社) 関西経済連合会  
協賛 | プラチナ協賛: 阪急電鉄株式会社 / ゴールド協賛: オムロン株式会社 / 岩井コスモ証券株式会社  
ジーライオングループ / シルバー協賛: 住友林業株式会社

<お問い合わせ> 一般社団法人 夢洲新産業・都市創造機構 事務局  株式会社健康都市デザイン研究所  
大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞ビル8階 TEL:06-6136-8803 E-mail: info@yumeshimakikou.com



人工臓器、遺伝子操作、人間らしいロボット、AIによって、人間の定義を拡張し、人間を進化させる科学技術。人間は動物のような生物的進化の方法だけでなく、科学技術による進化の方法を持ちます。そして、それが人間を人間たらしめています。これからの人間は、さらに科学技術を発展させ科学技術と融合しながら、「いのち」の可能性を飛躍的に広げ、その多様な価値観と幸福感で人間自身や人間社会、そしてそれを巻き込む環境や生態系を発展させていきます。本パビリオンはそのような「いのち」(人間・社会)の新たな在り方を創造し、展示します。来館者は、人間とアンドロイドロボットが共に働く最先端の生活空間の中を、様々な情報を受け取りながらゆっくりと通り抜けていきます。会場では、大阪大学等の協力により、様々な未来シーンを再現します。そして、アンドロイドロボット、役者、来館者が関わり合います。その中で、来館者は自分についての未来を感じ、考え、様々な思いを巡らせます。

## 石黒 浩 Hiroshi Ishiguro

2025年日本国際博覧会 テーマ事業プロデューサー  
テーマ：いのちを拓げる



ロボット学者 工学博士 大阪大学教授  
ATR 石黒浩特別研究所客員所長

1991年、大阪大学基礎工学研究科博士課程修了。工学博士。  
2009年より大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授。  
ATR 石黒浩特別研究所客員所長 (ATR フェロー)。2017年から大阪大学栄誉教授。  
研究対象は、人とかがわるロボットやアンドロイドサイエンス。多数の論文を主要な科学雑誌や国際会議で発表。また、ロボビー、リブリー、ジェミノイド、テレノイド、エルフォイドといった、人とかがわるヒューマノイドやアンドロイドを開発。これらのロボットは、ディスカバリーチャンネルやNHK、BBCほか、世界中の多数のメディアで取り上げられている。  
2009年には、メディアアートの世界的なイベントの1つであるアルス・エレクトロニカ・フェスティバルのフィーチャードアーティストとして招待された。2011年、大阪文化賞受賞。2015年、文部科学大臣表彰受賞およびシェイク・ムハンマド・ビン・ラシド・アール・マクトゥーム知識賞受賞。2020年、立石賞受賞。

## 世界文化遺産 京都 醍醐寺

醍醐寺は874年に開創され、上醍醐と下醍醐の約200万坪の広大な敷地に、京都府内で最古の木造建築である五重塔など国宝75,537点(日本一の国宝点数)をはじめ、仏像、文書、絵画など、古代・中世以来の約15万点にも及ぶ貴重な寺宝を収蔵しています。本坊的な存在の三宝院は、建物の大半が国の重要文化財に指定されており、中でも庭園全体を見渡せる表書院は、桃山時代の寝殿造様式を伝える建造物として国宝に指定されています。三宝院庭園は、慶長3年(1598)に豊臣秀吉公が「醍醐の花見」に際して自ら基本設計をした庭であり、今も桃山時代の華やかな雰囲気を与えています。

醍醐寺

ホームページ



## 第1回 日本国際芸術祭 参加企画 (醍醐寺以外の会場)

### 「SHOSA : Future Dialogue - アンドロイドアバターによる心の表現 -」

開催日時 | 10/5 (木) ~ 10/8 (日) 10:00 - 17:00

開催場所 | ATR【株式会社 国際電気通信基礎技術研究所】京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2



「所作」とは、日本の文化において培われた、身体と心をつ結びつけ、相手と自分を調和させるための暗黙のコミュニケーションです。私たちは、この「所作」を現代において進化させ、相手や環境との関わりの中で、豊かな心の表現を生み出すことを目指しています。この進化した「所作」を「SHOSA」と呼びます。「SHOSA」は、人間だけでなく、ロボットなどあらゆる「いのち」との関わりの中で、多様で豊かな心表現します。本インスタレーションでは、来場者やアンドロイドアバターの動きに応じて、そこに現れる「SHOSA」を、連続的に変化する音や光で表現します。この「SHOSA」を獲得する能力は「身体知」と呼びます。来場者は、本インスタレーションを体験することで、自らの「身体知」を発展させます。来場者は、アンドロイドアバターと体の動きを通じた対話の中で、自らの「身体知」を発展させ、「SHOSA」を獲得し、自らを進化させるのです。

菊地あかね (KIQ)  
エクスペリエンスデザイン&総合ディレクター

石黒浩 (大阪大学&ATR)  
ロボット監修

メインシステムクリエイター 船山智 (ATR)  
サウンドデザイン 佐久間海土  
視覚表現デザイン 堀部和也 (大阪大学)  
ロボットシステム開発 港隆史 (理研&ATR)

三方瑠祐 (ATR)  
境くりま (ATR)  
デザイン 三沢千優 (KIQ)  
森健哉 (KIQ)

\*本プロジェクトは、ムーンショットプロジェクト目標1「誰もが自在に活躍できるアバター共生社会の実現」の一部として取り組んでいます。

ATR Advanced Telecommunications Research Institute International

【HP】 <https://www.atr.jp/about/faq.html>